

●診療科の特色

1. 呼吸器外科では胸の中にある肺、縦隔などの病気を中心に手術を行っています。病気の診断、評価は呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携して行われ、手術で良くなる状況かどうかを判断しています。
2. 手術症例の6～7割は肺がんであり、命に関わる病気でもあるため肺がんには最も力を入れています。がんを治すことにこだわり、手術手技はもちろん、放射線、薬物療法を組み合わせることにより手術で治るかどうかが、ぎりぎりのところで差のつく高度な医療を提供できるよう心掛けています。当科では進行癌を扱うことが多く、今年度の手術症例の半数以上は術後補助化学療法が必要な肺がんでした。
3. 気胸、縦隔腫瘍などの多くの病気、難治性の病気などに対しても対応しています。最近増えている肺気腫、間質性肺炎、塵肺などに合併する難治性の気胸に対しては根気よく治療にあたる必要があり呼吸器内科、放射線科と話し合い、多くの治療戦略を立てて対応しています。
4. 胸腔鏡下手術に関してですが、当院では患者さんへの手術による体の負担、痛みを減らすため、また創部の綺麗さにこだわって、積極的に導入してきました。手術器具も年々進化しており、より安全になっています。さらに身体への負担を少なくする試みもありますが、当院の役割としては実績ある手技の技術を限りなく高めて患者さんに提供するスタンスです。
5. 初診の患者さん、そのご家族からは十分な時間をかけてお話しを伺うようにしています。十分な説明の上、皆が前向きな気持ちで治療へと進めるよう心掛けています。
6. 一般に肺の手術は難易度が高い手技とされています。安全、かつ確実な手術を提供できるよう日々努めています。手術に入るスタッフが固定しているため安定した医療を提供できていると思います。

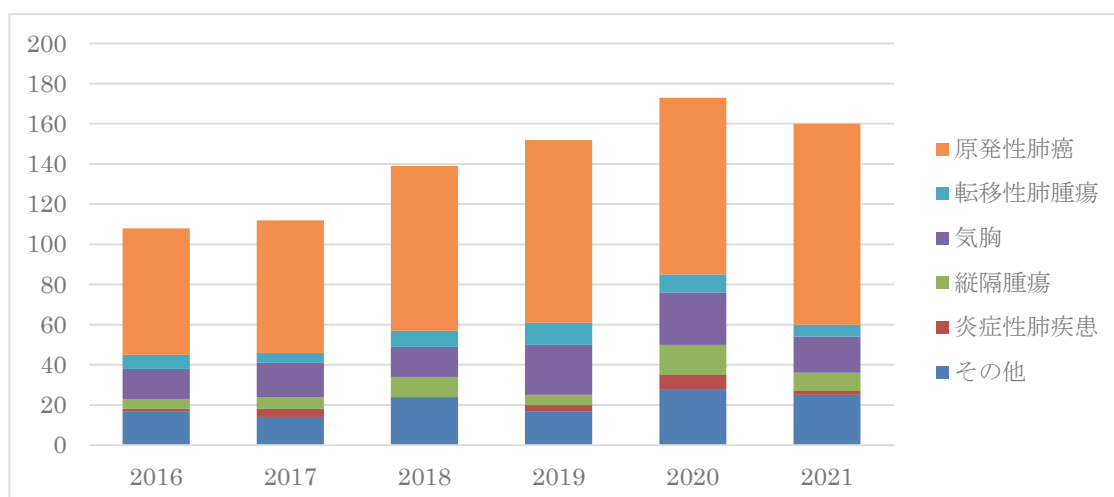
●入院診療実績

1. 主要手術(全身麻酔)

2021年度(2021.4～2022.3)手術件数 154件

	手術名	件数
1	原発性肺癌	95
2	転移性肺腫瘍	5
3	気胸	17
4	縦隔腫瘍	14
5	その他	23

2. 手術件数の推移(全身麻酔)



3. その他

● 研究業績

論文

- 1) M.Yoshikawa ,Y.Hirami
Surgery for Right Upper Lobe Lung Cancer in a Patient With Bridging Bronchus
Ann Thorac Surg, 112, e411-e413, 2021, 11
- 2) 山原美穂, 吉川真央, 林直宏, 鳥越英次郎, 秋山一郎, 平見有二
乳癌に対するペバシズマブ併用化学療法中に発症した気胸に対して胸腔鏡下ブラ切除
+胸膜癒着術を行った一例
日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌, 21 巻, 29~32 ページ, 2021/3/1

学会

- 1) 平見 有二
局所進行胸腺腫に対して術前導入化学療法後に腫瘍切除+心嚢内処理を伴う隣接臓器合併切除を行った1例
第38回 日本呼吸器外科学会学術集会 2021年5月20日
- 2) 鳥越 英次郎
肺切除術中に致死的不整脈を起こした2例
第38回 日本呼吸器外科学会学術集会 2021年5月20日
- 3) 平見 有二
肺門部剥離困難であった右下葉肺癌に対して肺底区域レベルでの一括処理で完全切除を成しえた一例
第64回 関西胸部外科学会学術集会 2021年6月17日
- 4) 鳥越 英次郎
長期人工呼吸管理中に発生した気胸に対して胸腔鏡下手術を行った2例
第34回 日本内視鏡外科学会総会 2021年12月4日
- 5) 松岡 篤志
高齢女性に認めた増大傾向を示した中縦隔嚢胞の一例
第34回 日本内視鏡外科学会総会 2021年12月4日
- 6) 平見 有二
肺良性疾患③
第83回 日本臨床外科学会総会 2021年11月18日
- 7) 鳥越 英次郎
肺良性疾患②
第83回 日本臨床外科学会総会 2021年11月18日